

SRPC メンテナンスソフト

SRPC-Soft



野村エンジニアリング（有）
Nomura Engineering Co., Ltd.

Since 1997

Table of contents

1.0 概要.....	4
1.1 デザインファイルとデータベース.....	4
1.2 常駐機能とガジェットアイコン.....	4
1.3 GoogleMap 機能.....	4
1.4 帳票印刷と分析ツール.....	5
2.0 ファイル構成.....	5
3.0 パソコンに接続.....	5
3.1 TS02EJ SerialBD / SerialNALM.....	5
3.2 SRPC-GW.....	6
3.3 パソコンから切断.....	6
4.0 経路設定.....	7
4.1 SRPC 本体の追加.....	7
4.2 SRPC 本体の削除.....	7
4.3 SRPC 本体を全て削除.....	7
4.4 SRPC 本体の親ノードを設定.....	8
4.5 SRPC 本体のプロパティの設定.....	8
5.0 制御端末の設定.....	9
5.1 TS02EJ SerialBD / SerialNALM.....	9
5.2 SRPC-GW.....	10
6.0 アップロード.....	12
7.0 サービス.....	13
7.1 サービス開始.....	13
7.2 サービス停止.....	13
7.3 ログインデータの確認.....	13
8.0 分析ツール.....	14
8.1 分析ページの追加.....	14
8.2 分析ページの削除.....	15
8.3 CSV ファイル出力.....	15
9.0 デザインファイル.....	15
9.1 デザインファイルを保存.....	15
9.2 デザインファイルを開く.....	15
9.3 デザインファイルを新規作成.....	15
10.0 帳票印刷.....	16
11.0 環境設定.....	16
11.1 アップロード時のバリファイ.....	16
11.2 信号強度 (RSSI) の表示.....	16
11.3 常駐タスク.....	17
11.4 地図ページ.....	17

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

11.5 自動保存	17
12.0 データベース	17
12.1 選択テーブル消去	17
12.2 条件付き消去.....	17
12.3 全テーブル消去.....	17
13.0 ガジェット.....	18
14.0 GoogleMap 機能.....	18
補足A USB ドライバのインストール方法.....	19
変更履歴	21

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

1.0 概要

SRPCメンテナンスソフトは、SRPCの経路設定・データ収集・データ分析を行うためのWindowsソフトです。ご使用前に、お使いのパソコンに.NET Framework 4.0以上がインストールされていることと、制御用無線モジュール（Table1-1）をご用意ください。

Table1-1 制御用無線モジュール

型名	説明
TS02EJ SerialBD	PCとRS-232CまたはUSB接続
SRPC-GW	PCとUSB接続

1.1 デザインファイルとデータベース

SRPCメンテナンスソフトは、経路設定とプロパティ設定をデザインファイルに保存し、センサデータをデータベースに保存します。

データベースは、複数のデザインファイルで共通して使用されます。

データベース、デザインファイル共に自動保存されます。

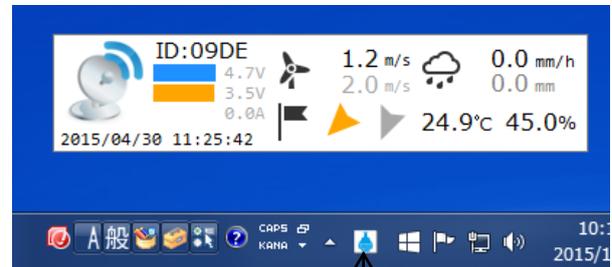
1.2 常駐機能とガジェットアイコン

常駐機能を有効にすると、画面を表示せずにSRPCメンテナンスソフトを稼働しておくことができます。また、常駐機能を有効にすると、ガジェットアイコンが使用できます。

ガジェットアイコンは、デスクトップ画面に直接表示されるアイコンになります（Image1-1）。

アイコンは、最新の電源状態とセンサ状態を表示しますので、デスクトップ画面上で別の作業をしながら簡単に状況を確認することができます。

Image1-1 ガジェットアイコン



常駐アイコン

1.3 GoogleMap機能

GoogleMapを利用して、SRPCの設置場所を設定できます（Image1-2）。GoogleMapの情報ウィンドウ内で最新の電源状態とセンサ情報を表示しますので、GoogleMap画面上でリアルタイムに確認することができます。

Image1-2 GoogleMap画面



製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

1.4 帳票印刷と分析ツール

日報・月報等の帳票印刷や、10分毎・1時間毎でのグラフ表示やCSV形式でのファイル出力もサポートしています。

帳票編集ソフトを使用して、簡単に帳票を増やすことができるので、希望がありましたらご相談ください。

2.0 ファイル構成

SRPC-Soft

- Database ... データベース
- Report ... 帳票ファイル

- (共通ファイル)
- ReportMaker.exe ... 帳票編集ソフト
- SRPC-Soft.exe ... メンテナンスソフト
- SRPC-Soft.exe.config
- SRPC-Lib.dll

- (各種プラグインファイル)
- SRPC-RRS-Lib.dll
- SRPC-TSR-Lib.dll
- SRPC-AIR-Lib.dll
- SRPC-SERIAL-Lib.dll

インストール等の処理は必要ありません。フォルダごとコピーして、SRPC-Soft.exe を起動して下さい。

Database フォルダは自動で作成されますので、初回起動時に無くても問題ありません。

3.0 パソコンに接続

USB ドライバを先にインストールして下さい。インストール方法は[補足 A USB ドライバのインストール方法](#)を参照して下さい。

3.1 TS02EJ SerialBD / SerialNALM

画面左のController アイテムを右クリックすると、Controller メニューが表示されます。Controller メニュー内の「シリアル通信の接続」(Image3-1) もしくは、ツールバーのシリアル通信の接続ボタン (Image3-2) をクリックします。

Image3-1 Controller メニュー (接続前)



Image3-2 シリアル通信の接続ボタン



シリアル通信の接続画面が表示されますので、COM名とボーレートを確認して、OKを押します。ボーレートは変更しない限り19200bpsになります。

正しく認識されると、デザインビューにController アイコン (Image3-3) が表示されます。このアイコンを右クリックすると、Controller メニューが表示されます。また、アイコンはマウスのドラッグで表示位置を移動することができます。

Image3-3 Controller アイコン



無線モジュールのIDが黒色で表示されています

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

3.2 SRPC-GW

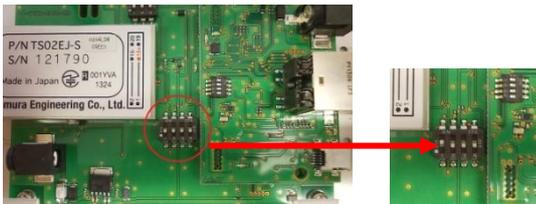
SRPC-GWの電源を一度切り、Image3-4のディップスイッチ1番をONにしてから電源を投入します。

ディップスイッチ1番がOFFの場合は、SRPC-GWは通常起動、つまりSRPCからセンサデータを回収し、Ethernetへ流す動作を繰り返します。

ディップスイッチ1番がONの場合は、SRPC-GWは設定モード起動になります。設定が完了したらディップスイッチ1番をOFFに戻します。

SRPC-GWのネットワークを使用しない場合には、ディップスイッチ1番をONのままにしてください。

Image3-4 SRPC-GW のディップスイッチ



画面左のGatewayアイテムを右クリックすると、Gatewayメニューが表示されます。Gatewayメニュー内の「ゲートウェイの接続」(Image3-5)もしくは、ツールバーのゲートウェイの接続ボタン(Image3-6)をクリックします。

Image3-5 Gateway メニュー (接続前)



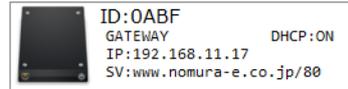
Image3-6 ゲートウェイの接続ボタン



シリアル通信の接続画面が表示されますので、COM名とボーレートを確認して、OKを押します。ボーレートは変更しない限り19200bpsになります。

正しく認識されると、デザインビューにGatewayアイコン(Image3-7)が表示されます。このアイコンを右クリックすると、Gatewayメニューが表示されます。また、アイコンはマウスのドラッグで表示位置を移動することができます。

Image3-7 Gateway アイコン



3.3 パソコンから切断

Controllerメニュー内の「通信の切断」(Image3-8)もしくは、ツールバーの切断ボタン(Image3-9)をクリックします。

Image3-8 Controller メニュー (接続後)

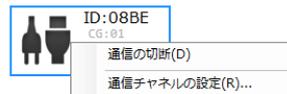


Image3-9 通信の切断ボタン



製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

4.0 経路設定

4.1 SRPC本体の追加

画面左のSRPC総合アイコンを右クリックすると、SRPC総合メニューが表示されます。SRPC総合メニュー内の「追加」(Image4-1) もしくは、ツールバーのSRPCの追加ボタン (Image4-2) をクリックします。

Image4-1 SRPC 総合メニュー

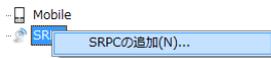


Image4-2 SRPC の追加ボタン



SRPCの追加画面 (Image4-3) が表示されますので、型名から対象のSRPC製品を選択し、SRPC筐体前に貼ってあるID番号をSRPC-IDの項目に入力して下さい。

識別名とメモは自由に入力できる項目になります。

Image4-3 SRPC の追加画面



追加に成功すると、デザインビューにSRPCアイコン (Image4-4) が表示されます。このアイコンを右クリックすると、画面左のSRPCアイコンを右クリックしたもの (Image4-5) と同じSRPCメニューが表示されます。また、アイコンはマウスのドラッグで表示位置を移動することができます。

SRPCアイコンは、製品によって変化します。

Image4-4 SRPC アイコン

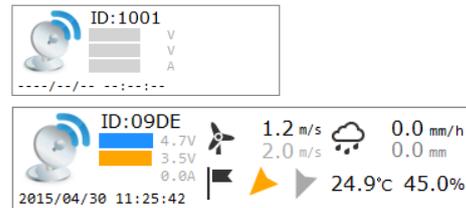
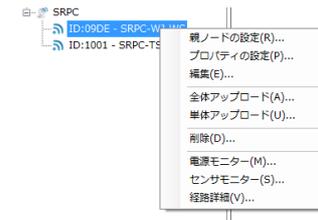


Image4-5 SRPC メニュー



4.2 SRPC本体の削除

SRPCメニュー内の「削除」をクリックします。確認画面が表示され、OK ボタンを押すと削除されます。

4.3 SRPC本体を全て削除

SRPC 総合メニュー (Image4-6) 内の「全て削除」をクリックします。確認画面が表示され、OK ボタンを押すと全て削除されます。

Image4-6 SRPC 総合メニュー



製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

4.4 SRPC本体の親ノードを設定

制御端末に近い方のSRPCを親ノードと呼び、反対のSRPCを子ノードと呼びます。受信データは、子ノードから親ノードに順々に集まっていき、制御端末に届きます。子ノードは、親ノードを一つしか持てません。

SRPCメニュー内の「親ノードの設定」をクリックします。クリックすると、親ノードの設定画面 (Image4-7) が表示されます。

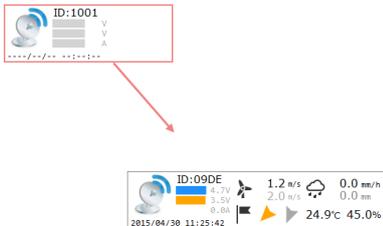
Image4-7 親ノードの設定画面



親ノードのSRPCのIDを選択して、OKボタンを押すと親ノードから子ノードに向かって矢印が表示されるようになります。

SRPCアイコン上でCtrlキーを押しながら、ドラッグ&ドロップをしても親子関係を設定することができます (Image4-8)。

Image4-8 ドラッグ&ドロップでの設定



4.5 SRPC本体のプロパティの設定

SRPCメニュー内の「プロパティの設定」をクリックします。クリックすると、SRPCの種類に応じたプロパティの設定画面が表示されます。

Image4-9は、SRPC-RRSのプロパティの設定画面になります。

Image4-9 SRPC-RRS のプロパティの設定画面



通信距離検査モードを有効にすると、無線信号強度が弱い場合、ステータスLEDが点滅するようになるモードになります。

センサデータの有効期間は、制御端末からのアクセスが無い時、SRPC本体側でセンサデータを破棄するまでの時間になります。

タグの有効時間は、タグからの送信を受信してから、再び同一タグの送信を受信するまでの時間になります。

詳細については、SRPC-RRSの仕様書を参照してください。

Image4-10は、SRPC-TSRのプロパティの設定画面になります。

Image4-10 SRPC-TSR のプロパティの設定画面



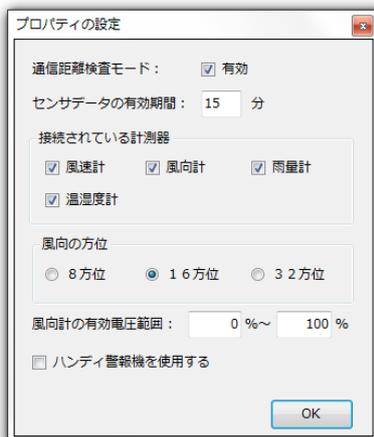
接続されている計測器は、SRPC本体に内蔵されているセンサの有無を設定します。

詳細については、SRPC-TSRの仕様書を参照してください。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

Image4-11 は、SRPC-WJ-WS のプロパティの設定画面になります。

Image4-11 SRPC-WJ-WS のプロパティの設定画面



接続されている計測器は、SRPC に接続されているセンサの有無を設定します。

風向の方位は3種類から選ぶことができます。32方位を選択すると、方位の表示が1/32等の比で表現されます。

風向の有効電圧範囲は、風向センサがポテンシオメータなら0~100%、ホールICタイプなら10~90%と設定して下さい。

詳細については、SRPC-WJ-WSの仕様書を、ハンディ警報機については、別紙のハンディ警報機の仕様書を参照してください。

5.0 制御端末の設定

5.1 TS02EJ SerialBD / SerialNALM

Controllerメニュー (Image5-1) 内の「起点SRPCの設定」をクリックします。起点SRPCの設定画面 (Image5-2) が表示されます。

Image5-1 Controller メニュー

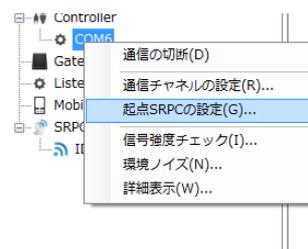


Image5-2 起点SRPCの設定画面



親ノードのいないSRPCと通信チャンネルを選択して、追加ボタンを押して下さい。

設定が完了したら、OKボタンを押して下さい。

Controllerアイコン上でCtrlキーを押しながら、ドラッグ&ドロップをしても起点SRPCを設定することができます。

Image5-3 や Image5-4 のように、Controller アイコンから矢印が一方方向になるようにして下さい。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

Image5-3 デザインビュー (シングル)

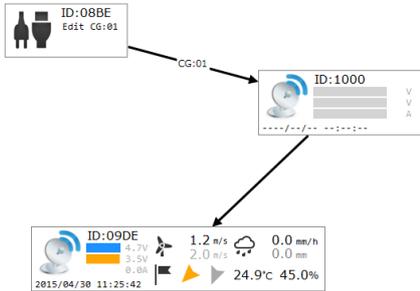
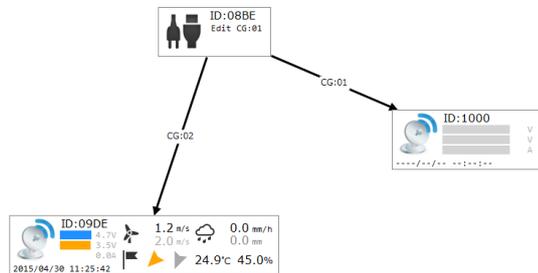


Image5-4 デザインビュー (ブリッジ)



5.2 SRPC-GW

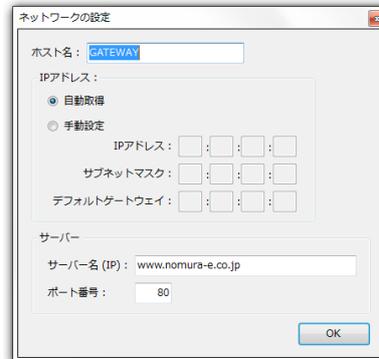
SRPC-GWのネットワークを使用しないで、スタンドアロンで使用する場合には、以降の「ネットワークの設定」と「プロパティの設定」は必要ありません。

Gatewayメニュー (Image5-5) 内の「ネットワークの設定」をクリックします。ネットワークの設定画面 (Image5-6) が表示されます。

Image5-5 Gateway メニュー



Image5-6 ネットワークの設定画面



ホスト名の項目には、SRPC-GWの名前を入力します。複数のSRPC-GWをご使用の場合は、同じ名前を入力しないよう注意して下さい。

ネットワーク環境がDHCPを使用している場合には、IPアドレスの項目は自動取得を選択します。DHCPを使用していない場合は、手動設定を選択して、SRPC-GWのローカルIPアドレスを入力します。

サブネットマスクには、ネットワーク環境のサブネットマスクを入力します。

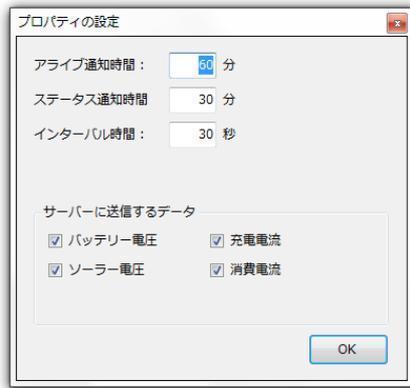
デフォルトゲートウェイには、ネットワーク環境のデフォルトゲートウェイを入力します。

サーバー名の項目には、サーバーのURLもしくはIPアドレスを入力します。ポート番号は、サーバーでセンサデータを受け取るポートの番号を入力します。

Gatewayメニュー (Image5-5) 内の「プロパティの設定」をクリックします。プロパティの設定画面 (Image5-7) が表示されます。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

Image5-7 プロパティの設定画面



SRPC-GWは、SRPCから回収したセンサデータをサーバーへ転送します。SRPCの種類によっては、センサデータが無く自身のACKデータだけを返すものが存在します（*1）。

SRPC-GWは、通信トラフィック低減のため、ACKデータは毎回サーバーへは送信しません。アラライブ通知時間の間隔でACKデータをサーバーへ送ります。

このACKデータを利用することで、サーバーは、データが無いのか通信エラーなのかを区別できます。

*1) SRPC-RRSは、タグ情報を受信する製品ですが、タグ情報が1つもなかった場合には、SRPC-GWには、タグ情報無しというACKデータが送られます。

ステータス通知時間とは、SRPCの電源情報を回収する間隔になります。電源情報はセンサデータと違い、変化が緩やかなので回収する間隔を広くできます。

インターバル時間とは、SRPCからセンサデータを回収した後の待機時間のことを指します。

サーバーに送信するデータの欄では、サーバーに送るSRPCの電源情報を個別に選択することができます。

Gatewayメニュー（Image5-5）内の「起点SRPCの設定」をクリックします。起点SRPCの設定画面（Image5-2）が表示されます。

親ノードのいないSRPCと通信チャンネルを選択して、追加ボタンを押して下さい。

設定が完了したら、OKボタンを押して下さい。

Image5-8 や Image5-9 のように、Gateway アイコンから矢印が一方方向になるようにして下さい。

Image5-8 デザインビュー（シングル）

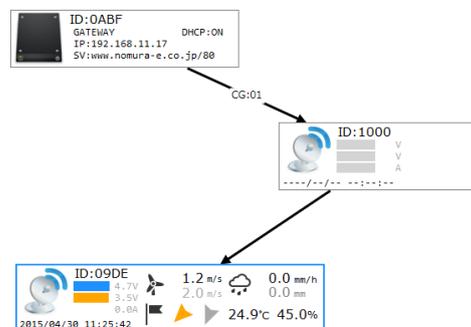
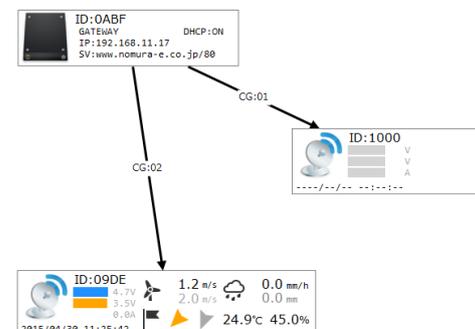


Image5-9 デザインビュー（ブリッジ）



製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

6.0 アップロード

アップロードを行わないと、経路設定やプロパティ設定が反映されません。

SRPC総合メニュー (Image6-1) 内の「全体アップロード」もしくは、全体アップロードボタン (Image6-2) をクリックします。

Image6-1 SRPC 総合メニュー

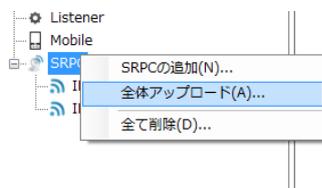


Image6-2 全体アップロードボタン



全体アップロードが始まると、アップロード画面 (Image6-3) が表示されます。アップロードが成功すると、アップロード画面は自動で閉じられます。アップロード中に何らかの通信トラブルが発生すると、アップロード画面がエラー表示になります (Image6-4)。

Image6-3 アップロード画面 (アップロード中)



Image6-4 アップロード画面 (エラー時)



エラー時のアップロード画面でOKを押すと、アップロード画面が閉じられます。リトライを押すと、エラーが発生した項目から再アップロードが始まります。エラーが発生した項目は赤色で表示されています。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

7.0 サービス

サービスを開始すると、SRPCから電源状態とセンサ状態の回収を始めます。回収したデータを元に、SRPCアイコンの表示とグラフ図が更新されていきます。

サービスが稼働中にアップロードを実行すると、サービスは停止されます。

常駐機能を有効にしていないと、SRPCメンテナンスソフトを終了するとサービスも停止されます。

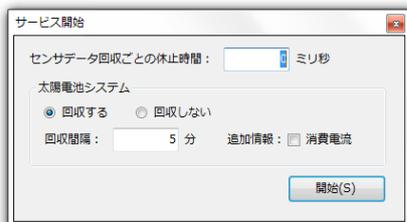
7.1 サービス開始

メニューの「サービス」内の「開始...」もしくは、ツールバーの開始ボタン (Image7-1) をクリックします。クリックすると、サービス開始画面 (Image7-2) が表示されます。

Image7-1 開始ボタン



Image7-2 サービス開始画面



1分おきにSRPCのセンサ状態を確認したい場合には、センサデータの回収ごとの休止時間に60000と入力します。

30分おきにSRPCの電源状態を確認したい場合には、電源データの回収間隔に30と入力します。ソーラー電圧・バッテリー電圧・充電電流は必ず回収されるので、それ以外に必要な項目にチェックを入れて下さい。

ステータスメッセージ (Image7-3) には、現在のデバッグ状況が表示されます。

Image7-3 サービスのステータスメッセージ



7.2 サービス停止

メニューの「サービス」内の「停止」もしくは、ツールバーの停止ボタン (Image7-4) をクリックします。

サービスを停止するまでに時間がかかる場合には、サービス停止中が表示されます。サービス停止中は、他の操作ができなくなります。

Image7-4 サービス停止ボタン



7.3 ログングデータの確認

SRPC Battery ページ (Image7-5) で、SRPCの電源状況をリアルタイムで確認できます。

Image7-5 SRPC Battery ページ

SRPC ID	SRPC名	電圧[V]	電流[A]	充電電流[A]	消費電流[A]
000E		3400mV	00A		
000E		3470mV	00A		
000E		3550mV	00A		
000E		3630mV	00A		
000E		3710mV	00A		
000E		3790mV	00A		
000E		3870mV	00A		
000E		3950mV	00A		
000E		4030mV	00A		
000E		4110mV	00A		
000E		4190mV	00A		
000E		4270mV	00A		
000E		4350mV	00A		
000E		4430mV	00A		
000E		4510mV	00A		
000E		4590mV	00A		
000E		4670mV	00A		
000E		4750mV	00A		
000E		4830mV	00A		
000E		4910mV	00A		
000E		4990mV	00A		
000E		5070mV	00A		
000E		5150mV	00A		
000E		5230mV	00A		
000E		5310mV	00A		
000E		5390mV	00A		
000E		5470mV	00A		
000E		5550mV	00A		
000E		5630mV	00A		
000E		5710mV	00A		
000E		5790mV	00A		
000E		5870mV	00A		
000E		5950mV	00A		
000E		6030mV	00A		
000E		6110mV	00A		
000E		6190mV	00A		
000E		6270mV	00A		
000E		6350mV	00A		
000E		6430mV	00A		
000E		6510mV	00A		
000E		6590mV	00A		
000E		6670mV	00A		
000E		6750mV	00A		
000E		6830mV	00A		
000E		6910mV	00A		
000E		6990mV	00A		
000E		7070mV	00A		
000E		7150mV	00A		
000E		7230mV	00A		
000E		7310mV	00A		
000E		7390mV	00A		
000E		7470mV	00A		
000E		7550mV	00A		
000E		7630mV	00A		
000E		7710mV	00A		
000E		7790mV	00A		
000E		7870mV	00A		
000E		7950mV	00A		
000E		8030mV	00A		
000E		8110mV	00A		
000E		8190mV	00A		
000E		8270mV	00A		
000E		8350mV	00A		
000E		8430mV	00A		
000E		8510mV	00A		
000E		8590mV	00A		
000E		8670mV	00A		
000E		8750mV	00A		
000E		8830mV	00A		
000E		8910mV	00A		
000E		8990mV	00A		
000E		9070mV	00A		
000E		9150mV	00A		
000E		9230mV	00A		
000E		9310mV	00A		
000E		9390mV	00A		
000E		9470mV	00A		
000E		9550mV	00A		
000E		9630mV	00A		
000E		9710mV	00A		
000E		9790mV	00A		
000E		9870mV	00A		
000E		9950mV	00A		
000E		10030mV	00A		

その他の SRPC 製品専用ページでは、回収したセンサデータをリアルタイムで確認できます。

ログングデータは、約 1000 件までしか表示されません。1000 件以上のデータを見たい場合には、[分析ツール](#)を使用して下さい。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

8.2 分析ページの削除

データ分析画面のメニュー「グラフ」内の「ページ削除」もしくは、ツールバーのページ削除ボタン (Image8-7) をクリックします。

Image8-7 ページ削除ボタン



8.3 CSVファイル出力

データ分析画面に表示されている結果をCSV形式でファイルに出力することができます。

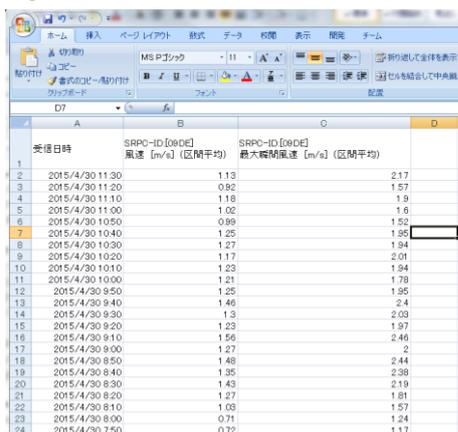
データ分析画面のメニュー「グラフ」内の「CSVファイル出力...」もしくは、ツールバーのCSVファイル出力ボタン (Image8-8) をクリックします。

Image8-8 CSV ファイル出力ボタン



CSV ファイルは、Excel 等の表計算ソフトで開くことができます。表計算ソフトの機能を使ってより複雑な分析を行うことができます (Image8-9)。

Image8-9 Excel 画面



	A	B	C	D
1	受信日時	SRPC-ID [09DE] 風速 [m/s] (区間平均)	SRPC-ID [09DE] 最大瞬間風速 [m/s] (区間平均)	
2	2015/4/30 11:30	1.13	2.17	
3	2015/4/30 11:20	0.92	1.57	
4	2015/4/30 11:10	1.18	1.9	
5	2015/4/30 11:00	1.02	1.6	
6	2015/4/30 10:50	0.99	1.52	
7	2015/4/30 10:40	1.25	1.95	
8	2015/4/30 10:30	1.27	1.94	
9	2015/4/30 10:20	1.17	2.01	
10	2015/4/30 10:10	1.23	1.94	
11	2015/4/30 10:00	1.21	1.78	
12	2015/4/30 9:50	1.25	1.95	
13	2015/4/30 9:40	1.46	2.4	
14	2015/4/30 9:30	1.3	2.03	
15	2015/4/30 9:20	1.23	1.97	
16	2015/4/30 9:10	1.56	2.46	
17	2015/4/30 9:00	1.27	2	
18	2015/4/30 8:50	1.48	2.44	
19	2015/4/30 8:40	1.35	2.38	
20	2015/4/30 8:30	1.43	2.19	
21	2015/4/30 8:20	1.27	1.81	
22	2015/4/30 8:10	1.09	1.57	
23	2015/4/30 8:00	0.71	1.24	
24	2015/4/30 7:50	0.72	1.17	

9.0 デザインファイル

9.1 デザインファイルを保存

デザインファイルは、自動で保存されますが、手動でも保存することができます。

メニューの「ファイル」内の「上書き保存」・「名前を付けて保存」もしくは、ツールバーのファイルに保存ボタン (Image9-1) をクリックします。

Image9-1 ファイルに保存ボタン



9.2 デザインファイルを開く

メニューの「ファイル」内の「開く」もしくは、ツールバーのファイルを開くボタン (Image9-2) をクリックします。

Image9-2 ファイルを開くボタン



ファイルを開くと、制御端末とのシリアル通信の接続も復元します。ただし、前回保存したときとCOM名が変化していると、接続に失敗します。

9.3 デザインファイルを新規作成

メニューの「ファイル」内の「新規作成」もしくは、ツールバーの新規作成ボタン (Image9-3) をクリックします。現在の内容が変更されていると、保存するか確認メッセージが表示されます。

Image9-3 新規作成ボタン



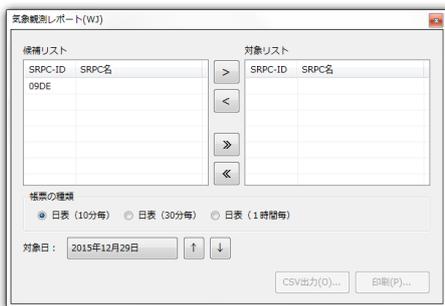
製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

10.0 帳票印刷

メニューの「帳票」内から印刷する帳票を選択してください。

気象観測レポートを選択すると、気象観測レポート画面 (Image10-1) が表示されます。

Image10-1 気象観測レポート画面



レポートは、SRPC単位に印刷されます。候補リストにあるSRPCから印刷するものを>ボタンを使用して、対象リストに移して下さい。

帳票の種類と、日付を選択したら印刷ボタンを押して下さい。CSV出力ボタンを押すと、印刷せずにCSV形式でファイルに出力されます。

印刷は、下図のようなレイアウトになります。

気象観測レポート
日報 (1時間毎) 対象日: 2015年12月29日 SRPC-ID: 090E 印刷日時: 2015年12月29日 15:35

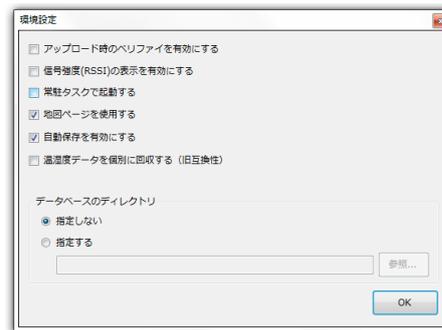
時刻	雨量	最大風速	風向	湿度	気温	露点	風向	風速	最大瞬間風速
時刻	mm/h	m/s	方位	%	℃	℃	方位	m/s	m/s
2015/12/29 01:00	0.0	18.2	79.9	2.3	度	1.0	度	1.0	00/20
2015/12/29 02:00	0.0	18.2	79.6	1.6	度	4.6	度	4.6	01/20
2015/12/29 03:00	0.0	18.0	80.8	1.2	度	4.1	度	4.1	02/11
2015/12/29 04:00	0.0	18.0	80.2	1.7	度	3.7	度	3.7	02/02
2015/12/29 05:00	0.0	17.9	81.1	6.1	度	2.6	度	2.6	04/11
2015/12/29 06:00	0.0	17.7	82.2	6.6	度	1.2	度	1.2	05/16
2015/12/29 07:00	0.0	18.8	79.2	0.1	度	1.4	度	1.4	06/14
2015/12/29 08:00	0.0	20.5	74.5	0.6	度	1.5	度	1.5	07/16
2015/12/29 09:00	0.0	23.2	68.2	1.6	度	2.9	度	2.9	08/10
2015/12/29 10:00	0.0	23.8	63.1	0.1	度	2.7	度	2.7	08/12
2015/12/29 11:00	0.0	22.6	64.9	1.2	度	4.1	度	4.1	10/10
2015/12/29 12:00	0.0	22.6	66.0	1.1	度	2.9	度	2.9	11/29
2015/12/29 13:00	0.0	23.8	62.2	1.0	度	4.0	度	4.0	12/16
2015/12/29 14:00	0.0	25.3	46.4	2.3	度	3.5	度	3.5	13/14
2015/12/29 15:00	0.0	26.1	41.5	2.2	度	3.5	度	3.5	14/20
2015/12/29 16:00	0.0	26.8	39.4	2.5	度	3.6	度	3.6	15/16
2015/12/29 17:00	0.0	27.7	42.7	1.5	度	2.8	度	2.8	16/14
2015/12/29 18:00	0.0	19.6	49.7	0.9	度	3.1	度	3.1	17/11
2015/12/29 19:00	0.0	19.6	74.0	0.4	度	2.6	度	2.6	18/11
2015/12/29 20:00	0.0	17.7	71.4	0.5	度	1.7	度	1.7	19/10
2015/12/29 21:00	0.0	17.4	70.9	0.2	度	1.0	度	1.0	20/10
2015/12/29 22:00	0.0	18.8	69.6	0.4	度	0.9	度	0.9	21/10
2015/12/29 23:00	0.0	18.2	61.5	0.2	度	0.9	度	0.9	22/13
2015/12/29 24:00	0.0	19.9	62.9	0.0	度	0.5	度	0.5	23/13
平均値		20.2	67.6	1.1	度				
最大値									
最大瞬間風速	0.0	34.00	36.4 (131.26)	88.3 (312.12)	8.2 (29.26)	度	7.8	度	10.04
最大雨量	0.0 (0.00mm)		15.9 (521.92)	40.9 (144.40)					

11.0 環境設定

メニューの「ファイル」内の「環境設定」をクリックします。環境設定画面 (Image11-1) が表示されます。

環境設定は、SRPC メンテナンスソフト全体の設定になります。

Image11-1 環境設定画面



11.1 アップロード時のベリファイ

有効にすると、SRPCの経路情報・プロパティをアップロードした後に、設定情報をダウンロードして照合します。有効にすると、アップロードにかかる時間が増えます。

通常は、無効のままでも問題ありません。

11.2 信号強度 (RSSI) の表示

有効にすると、前回チェックした信号強度がSRPC間の矢印に表示されるようになります。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

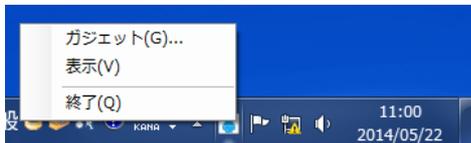
11.3 常駐タスク

常駐タスクを有効にすると、SRPCメンテナンスソフトを閉じて、Windowsのバックグラウンドで動作を続けます。

閉じられたSRPCメンテナンスソフトを再表示させるには、常駐アイコン (Image11-2) をクリックするか、右クリックをして「表示」をクリックします。

常駐タスクを終了する場合には、常駐アイコン上で右クリックをして「終了」をクリックします。

Image11-2 常駐アイコンとメニュー



11.4 地図ページ

地図ページを使用するにチェックを付けると、GoogleMapの地図ページを使用できるようになります。

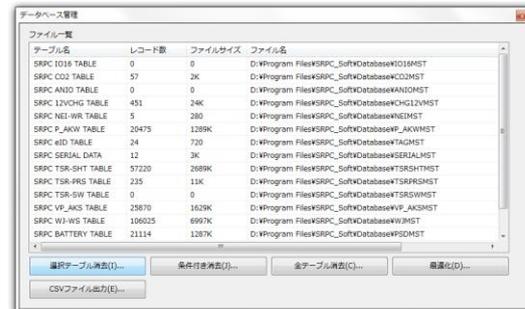
11.5 自動保存

自動保存を有効にするにチェックを付けると、デザインファイルが自動で保存されるようになります。

12.0 データベース

メニューの「サービス」内の「データベース管理...」をクリックすると、データベース管理画面 (Image12-1) が表示されます。

Image12-1 データベース管理画面



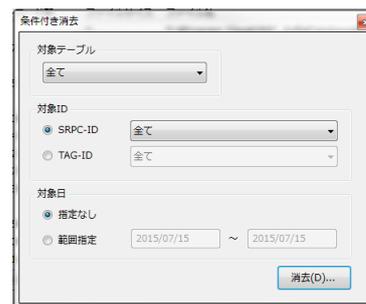
12.1 選択テーブル消去

リストボックスで選択されている1テーブルを削除します。

12.2 条件付き消去

条件付き消去ボタンを押すと条件付き消去画面 (Image12-2) が表示されます。

Image12-2 条件付き消去画面



対象とするテーブルや SRPC-ID、日付範囲を条件にして、テーブルから消去します。

12.3 全テーブル消去

全てのセンサーデータをクリアします。

13.0 ガジェット

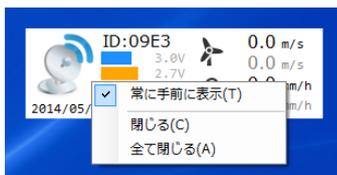
常駐メニュー内の「ガジェット」をクリックします (Image13-1)。デスクトップ画面にガジェットアイコンが表示されます。

Image13-1 常駐メニュー



デスクトップ画面に貼りついたガジェットアイコンを右クリックすると、ガジェットメニュー (Image13-2) が表示されます。

Image13-2 ガジェットメニュー



ガジェットメニュー内の「常に手前に表示」をチェックすると、ガジェットアイコンが常に手前に表示されるようになります。

「閉じる」をクリックすると、そのガジェットアイコンだけが閉じられます。「全て閉じる」をクリックすると、全てのガジェットアイコンが閉じられます。

14.0 GoogleMap 機能

SRPCをGoogleMap上に配置することができます。地図画面を利用することで、SRPCの配置が目瞭然になり、またセンサデータの分析にも役立ちます。



SRPC-IDのコンボボックスを操作して、配置するSRPCを選びます。既に配置されているSRPCを選ぶと地図の表示がそのSRPCの場所へジャンプします。

地図上の配置する地点をクリックします。緯度と経度が画面に表示されます。その後、配置ボタンを押します。

配置ボタンを押すと、地図上にSRPCの情報ウィンドウ (Image14-1) が表示されます。

Image14-1 SRPC の情報ウィンドウ



情報ウィンドウを表示しながら、サービスを開始すると、リアルタイムで情報ウィンドウが更新されていきます。

情報ウィンドウには、センサデータも表示されます (Image14-2)。

Image14-2 風速風向用 SRPC の情報ウィンドウ



製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

補足A USB ドライバのインストール方法

※ 以降の画面サンプルは Windows7 の画面になっています。

1. 機器をパソコンに USB 接続する前に行ってください。
既に接続されている場合は一度外してください。

2. シリコンラボ社のダウンロードサイト

<http://www.silabs.com/products/mcu/Pages/USBtoUARTBridgeVCPDrivers.aspx>

を開いて下さい。

CP210x Windows VCP Driver. Application Note Software downloads affected are AN144SW.zip and AN223SW.zip. If you are using a 5.x driver and need support you can download archived Software.

Download for Windows XP/Server 2003/Vista/7/8/8.1 (v6.6.1)

Platform	Software	Release Notes
 Windows XP/Server 2003 Vista/7/8/8.1	Download VCP (3.49 MB)	Download VCP Revis

“Download VCP”をクリックして、USB ドライバ（圧縮ファイル）をダウンロードして下さい。

3. ダウンロードしたファイルを解凍し、CP210xVCPInstaller_x86.exe（32bit 系）もしくは CP210xVCPInstaller_x64.exe（64bit 系）を実行してインストールして下さい。
お使いのパソコンが 32bit 系なのか 64bit 系なのか分からない場合には、

コンピューター

OS (C:)

“コンピューター”を右クリックして、一番下の”プロパティ”をクリックして下さい。

コントロールパネル ホーム

- デバイス マネージャー
- リモートの設定
- システムの保護
- システムの詳細設定

システム

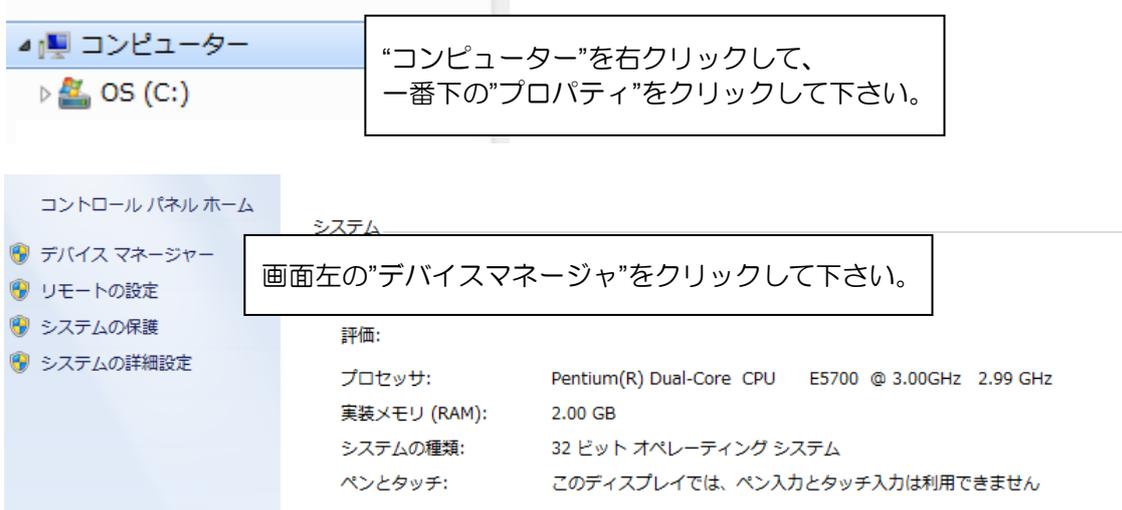
製造元:
モデル:
評価:

プロセッサ: Pentium(R) Dual-Core CPU E5700 @ 3.00GHz 2.99 GHz
実装メモリ (RAM): 2.00 GB
システムの種類: 32 ビット オペレーティング システム
ペンとタッチ: このディスプレイでは、ペン入力とタッチ入力は利用できません

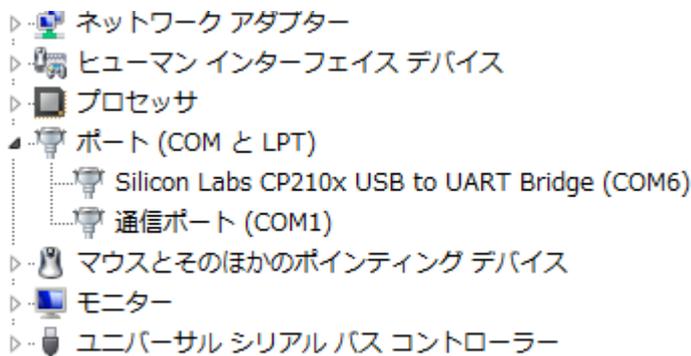
“システムの種類”で 32bit 系なのか 64bit 系なのか判断できます。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

4. 機器をパソコンにUSB接続します。
5. COM 番号を確認する為に、デバイスマネージャを開いて下さい。



6. “ポート (COM と LPT)” の欄に、“Silicon Labs CP210x USB …” と始まっている項目で COM 番号を確認できます。下記の画面では、COM 番号は 6 番になります。



製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

変更履歴

2014/05/20 Rev0.1	仕様書作成
2014/05/22 Rev0.2	ガジェット機能追加
2014/05/27 Rev0.3	アップロードの一本化に伴い、仕様書修正
2014/06/26 Rev0.4	SRPC Ver2.0対応、GooleMap対応
2014/17/09 Rev0.5	SRPC-RPT, SRPC-RS, SRPC-SPSを統合
2015/12/29 Rev10.0	機能・レイアウト等が大幅に改良

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。